

学校花壇の部

総 評

審査は1学期の終業式を目前にした7月19日、20日に行いました。

6月は猛暑、そして早い梅雨明けのあと審査日近くには雨が続ききました。どの学校でもぐんと生育した花々が迎えてくれました。今年は、創立140周年や150周年等の節目を迎える学校が多く、花育てを通して心の育成を目指す取り組みが顕著でした。新たに審査対象となった小中学校では、留学生を加えたり、小学生と中学生が協力して作った花壇など、新鮮な取り組みがありました。それぞれの学校では、昨年から続く新型コロナウイルス感染防止の対策の中、デザインを工夫し、子供たちを主体にした学校花壇がつけられていました。

どの学校も土作りに最も手間をかけているようで、土作りに相応して美しい花が咲いていると感じました。プラグ苗や越年したベコニア苗を利用する学校がありました。また、防草対策に苦慮する学校にはパークたい肥を勧めました。苗の配布が遅れたため、生育がやや遅れがちな学校には今後の育ちに期待をしました。

デザインでは各学校で、花壇に応じて、花の配置が考えられ、色や高低差も効果的に見えるよう配置されていました。花で文字や形を作り、カラフルな色や並べかたに動きが感じられるよう工夫された花壇もありました。

保護者やグリーンキーパーの支援を得て土作りに取り組んだり、地域の方々に草むしりを助けてもらったりして地域との交流をすすめる学校が多くありました。朝活動の時間、生活科や理科・総合的な学習の時間などで、一生懸命に花壇の世話をしている姿が素晴らしいと思いました。花壇を紹介する子供たちからは、美しい花壇を育てていることへの誇りが感じられました。また、上学年の子どもが下学年の子供に教えている姿もありました。花壇の花が元気に育つとともに、子供たちの笑顔が増え、学びが重なりますようにと願いました。

最優秀賞評

「心の花を咲かせよう。にじいろフラワーランド」のテーマで取り組んだ、黒部市の『若栗小学校』が最優秀賞を受賞しました。どの教室からも中央花壇が見下ろせ、工夫されたデザインが見事な花壇でした。

前年からPTAの方や職員で花壇の土作りに力を入れられたことが有効でした。また、日照の強い日が多かった本年は、花壇の立地が半日陰だったため、水持ちもよかったのでしょう。花壇の外側は、長年学校と共にある樹木を多年草のやさしい色合いで包むよう配置され、中央の円形花壇は、カラフルで曲線を描いた花のラインが動きだすようでした。また花で描かれた星型、二重のハート型、若栗のWの頭文字がくっきりと現れていました。デザインは児童から募集し、環境委員会が中心になり決めています。花苗の植付は5月12日に1・6年、2・4年、3・5年のペア学年で行われました。その後、水やり・草取りは全校児童で、追肥・花柄摘み等は環境委員会の児童や職員が適宜行っています。

若栗小学校の花壇づくりの歴史は長く、職員にも経験者が多く、熱心に子供たちの作業にかかわっておられるようです。また、花壇づくりを通じた児童の学びに惜しみなく協力をされる地域の方々にも恵まれています。地域の方々にも親しんでもらえるようにと設置した花壇のアーチには、アサガオが見事に育ち、思わず「きれい！」と声が出ました。子供たちが中心となり、地域の方々の支えられた見事な学校花壇に拍手を送ります。そして子供たちの心に大きな花が満たされたことをお祝いし、それを支えた地域の方々に敬意を表します。

(審査委員長 五十嵐 俊子)